

第268回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和5年6月17日(土)
会 場 ステーションコンファレンス東京 5・6階 (千代田区)
第Ⅰ会場 (503CD)
第Ⅱ会場 (503AB)
第Ⅲ会場 (501A)
第Ⅳ会場 (501B)
第Ⅴ会場 (605BC)
第Ⅵ会場 (602AB)
PCセンター (501S)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー5・6階
TEL 03-6888-8080

会 長 国際医療福祉大学市川病院 循環器内科
船橋 伸禎

御 案 内

- 参加費**：会員 3,000円
後期研修医、コメディカル 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。
- 受付時間**：参加受付 8:30-17:50
PCセンター 8:30-17:30
- 一般演題発表時間**：口演5分、討論2分
- Award**：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)
Student Award：第Ⅵ会場：17:10-18:00
Resident Award：第Ⅰ会場：17:10-18:00
Case Report Award：第Ⅱ会場：17:10-18:00
Clinical Research Award：第Ⅴ会場：17:20-18:00
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 正しい医学用語の使用
 - 発表時間の厳守と態度
 - 考察
 - 質問に対する応答
 - 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
- その他**：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただきかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

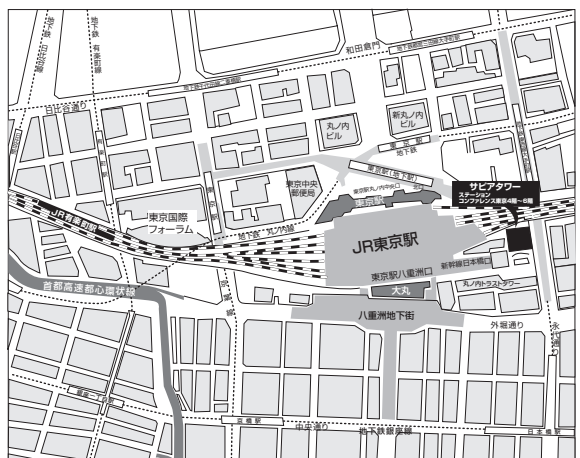
託児サービスのご案内

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。
評議員会：地方会終了後、第Ⅰ会場で行います。
(懇親会は5階フロアにて行います。)

次回地方会：第269回地方会は次の通りです。

日時：令和5年9月2日(土)
会場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)
会長：加藤 律史
(埼玉医科大学 国際医療センター 心臓内科・不整脈科)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分
八重洲北口改札口 徒歩2分
東京メトロ東西線「大手町駅」B7出口から直結

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、以下の要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。

●Windows でデータを作成された場合：データをお持ち下さい

- USBフラッシュメモリに保存してご提出下さい。
(DVD・FD・MO等は受付できませんのでご注意ください。)
- OSはWindows 10、アプリケーションはPowerPoint 2013、2019、2021に対応しております。
それ以外のソフトや動画が多い場合は、ご自身のPCをお持ち下さい。
- フォントはOS (Windows 10) 標準のもののみご用意致します。
日本語：MSゴシック・MSPゴシック・MS明朝・MSP明朝
英語：Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century
Century Gothic・Courier・Courier New・Georgia
これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ・文字化け・表示されない等のトラブルが発生する可能性があります。
- 液晶プロジェクターの解像度はフルHD (1,920×1,080dpi) まで対応しております。
- ご用意いただくUSBフラッシュメモリのウイルスチェックを事前に行ってください。
- ご発表開始時刻の30分前までにPCセンターでご発表データを試写確認のうえ、ご提出下さい。
午前の最初のセッションの時間帯ではPCセンターが混雑しますので、お早めにお越し下さい。
- 発表者ツールの機能はご使用にはなれません。
- ご発表データは事務局で責任を持って消去致します。

●Macintoshでデータを作成された場合：ご自身のPCをご持参下さい

- 必ずACアダプターをご用意下さい。



HDMI



HDMI



付属外部出力ケーブル例

- 動画もご利用いただけますが、再生できることをPCセンターで必ずご確認下さい。
- 利用機種・OS・アプリケーションに制限はありませんが、HDMIによるモニター出力が必要です。
ご持参いただくPCからHDMIへの変換コネクタが必要な場合には、各自でご用意下さい。 HDMI以外の接続はお受けできませんので予めご了承ください。
- ご講演時は演台にあるマウス又はキーボードにてスライドの操作をお願いいたします。操作機器の接続にUSBポートを使用するため、USBポートがないPCをお持ちの場合は変換コネクタをご用意ください。(例：MacBook Type-CからUSB変換)
- スクリーンセーバー、ウイルスチェックならびに省電力設定は予め解除しておいて下さい。
- 電源ケーブルを必ずご持参下さい。バッテリーでのご使用はトラブルの原因となります。
- 発表開始時刻の30分前までに、PCセンターで試写を行ってください。PCセンターならびにPCオペレーション席ではデータの修正・変更は行えません。
- 念のため発表用データのバックアップを必ずご持参下さい。
- ご持参頂くPCに保存されている貴重なデータの損失を避けるため、必ず事前にデータのバックアップを取っておいて下さい。
- PCをお預かり時にお渡しする半券はPC返却時に必要ですので大切に保管下さい。
- 発表者ツールの機能はご使用にはなれません。
- ご講演時に原稿が必要な場合は、予め印刷してご持参ください。

第268回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和5年6月17日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 5・6階（千代田区）

会長：国際医療福祉大学市川病院 循環器内科 船橋 伸禎

	第Ⅰ会場	第Ⅱ会場	第Ⅲ会場	第Ⅳ会場	第Ⅴ会場	第Ⅵ会場
8:50	開会挨拶					
9:00	一般演題 9:00-9:45 虚血性心疾患1 セッション1				一般演題 9:00-9:35 静脈/大動脈1 セッション10	
9:45	休憩	9:20 一般演題 9:20-9:55 不整脈1 上室 セッション3	9:20 一般演題 9:20-9:55 心不全1 セッション6		休憩	
10:00	一般演題 10:00-10:35 虚血性心疾患2 セッション2	10:00 一般演題 10:00-10:35 不整脈2 心室 セッション4	10:00 一般演題 10:00-10:35 心不全2 セッション7	10:00 教育セッションⅠ 10:00-11:30 「良い学会発表・ 症例報告の仕方」 演者：植村 研一 (浜松医科大学)	9:45 一般演題 9:45-10:20 静脈/大動脈2 セッション11	
10:35	休憩	休憩	休憩		休憩	
10:50	教育セッションⅡ 10:50-12:20 宇宙に挑む医学 演者：松本 暁子 (宇宙航空研究開発 機構(JAXA)有人宇 宙技術部門)	日本循環器学会関 東甲信越地方会と 日本心臓リハビリ テーション学会関 東甲信越支部の 合同シンポジウム 10:50-12:20	10:50 教育セッションⅢ 10:50-12:20 心電図入門—実際の 臨床現場での考え方 第一部 心電図基礎 とその応用 演者：東田 俊彦 (金沢医科大学教育 学習支援センター長/ 株式会社マック・メディ カル・アカデミー・コー ポレーション主席講師)	11:30 休憩	10:40 一般演題 10:40-11:15 心筋炎・心筋症1 セッション12	10:30 会長企画セッションⅠ 10:30-12:00 中学生AWARD
12:20	休憩	休憩	休憩		11:15 休憩	
12:30	12:30-13:20 ランチョン セミナー1 共催：第一三共株式会社	12:30-13:20 ランチョン セミナー2 共催：ジョンソン・エンド・ ジョンソン株式会社	12:30-13:20 ランチョン セミナー3 共催：日本メトロニック 株式会社	12:30 12:30-13:20 ランチョン セミナー4 共催：ファイザー 株式会社	11:25 一般演題 11:25-12:00 心筋炎・心筋症2 セッション13	12:00 休憩
13:20	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13:30	教育セッションⅣ 13:30-15:00 個人としてそして組織 としてやるべきこと、 やってはいけないこと 演者：土屋 敏男 (['進め！電波少年'] Tプロデューサー)	13:30 生物統計セミナー 13:30-15:00 「医学研究のための 統計学の基礎知識」	13:30 教育セッションⅤ 13:30-15:00 心電図入門—実際の 臨床現場での考え方 第二部 症例演習 演者：東田 俊彦 (金沢医科大学教育 学習支援センター長/ 株式会社マック・メディ カル・アカデミー・コー ポレーション主席講師)	13:30 学術委員会企画セッション 13:30-15:00 『リードレスペース メーカの新时代 ～過去・現在・未来～』	12:00 休憩	13:20 12:30-13:20 ランチョン セミナー6 共催：ホストン・サイエンティ フィック ジャパン株式会社
15:00	休憩	休憩	休憩	休憩	13:30 第15回 ダイバーシティ・ フォーラム/ 第8回 目指せ循 環器専門医！ 循環器専門医試 験対策セミナー 13:30-15:00	13:40 会長企画セッションⅡ 13:40-15:10 高校生AWARD
15:20	会長企画セッションⅢ 15:20-16:50 未来の医療を 変えるMuse細胞の 発見と秘話： チャンスはどのよう に訪れるのか	15:20 一般演題 15:20-15:55 デバイス セッション5	15:10 15:10-16:00 デザート セミナー1 共催：アボットメディカル ジャパン合同会社	15:10 一般演題 15:10-15:55 末梢血管/肺高血圧/腫瘍 セッション9	15:00 休憩	15:10 休憩
16:50	休憩	16:10 16:10-17:00 デザート セミナー2 共催：キャスワークス・ ジャパン合同会社	16:00 休憩	15:55 休憩	15:10-17:10 医療安全・医療倫 理に関する講習会 (DVDセッション)	15:10 休憩
17:10	17:10-18:00 Resident Award	17:00 休憩	16:25 一般演題 16:25-17:00 弁膜症/心内膜炎 セッション8	16:10 16:10-17:00 デザート セミナー3 共催：株式会社カネカ メディックス	17:10 休憩	17:10 17:10-18:00 Student Award
18:00	閉会式	18:00 17:10-18:00 Case Report Award	17:00 休憩	17:00 休憩	17:20 17:20-18:00 Clinical Research Award	
18:10	評議員会					

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション、医療安全・医療倫理に関する講習会）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しくださいますようお願い申し上げます。
セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。
また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）、医療安全・医療倫理に関する講習会（2単位）はそれぞれ単位の登録手続を行っていただく必要がございます。
お手数ではございますがそれぞれの単位のご登録をお願いいたします。
■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～17:50（開催終了まで）
■「教育セッション」（3単位）受付時間 9:30～11:00 / 10:20～11:50 / 13:00～14:30（開始30分前から終了30分前まで）
■「医療安全・医療倫理に関する講習会」（2単位）受付時間 14:40～16:40（開始30分前から終了30分前まで）

第 I 会場

一般演題 セッション1 虚血性心疾患 1

9:00-9:45

座長 (千葉西総合病院循環器科) 青木 直人
座長 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科) 吹野 恵子

I-1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に合併した心筋梗塞後心室中隔穿孔に対する外科治療の一例
(日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) 前川 良
坂本俊一郎、前田 基博、廣本 敦之、鈴木 憲治
(日本医科大学心臓血管外科) 石井 庸介

I-2 安定冠動脈疾患と思われた左回旋枝の末梢病変に急性心筋梗塞を起こした、服薬管理が不十分であった一例
(国際医療福祉大学成田病院循環器内科) 中山 崇
吉澤 彰宏、福岡 良磨、相澤 義泰、門間 雄斗、
杉村宏一郎、杉本 一将、加藤 倫子、館野 馨、
河村 朗夫
(国際医療福祉大学 成田病院循環器内科/塩谷病院循環器内科) 藤本 善英

I-3 急性心筋梗塞に合併したBlow-out型左室自由壁破裂に対しECPPELLA補助下に開胸修復術を行い救命し得た1例
(土浦協同病院循環器内科) 坂本 達哉
白井 英祐、羽田 昌浩、星野 昌弘、長嶺 竜宏、
羽生 佳弘、上野 弘貴、野上 開、松田 和樹、
角田 恒和
(土浦協同病院心臓血管外科) 木下 亮二、広岡 一信

I-4 PCI後LADステント内完全閉塞に対してステント抜去を含むCABGとPCIで血行再建を行った一例
(国際医療福祉大学医学部医学科4年生) Chen Shuning

I-5 前胸部及び下壁誘導でde Winter Patternを示した急性心筋梗塞(AMI)の1例
(藤沢湘南台病院循環器内科) 大野 哲
山田 優、吉光寺恵里、中村 悠城、大野 睦記、
福島 裕介

I-6 急性心筋梗塞に対する緊急PCI後に心破裂による心タンポナーデの診断に至り、緊急手術により救命した一例
(自治医科大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 蓮見 大樹
鈴木 規泰、大場 祐輔、甲谷 友幸、船山 大、
菊尾 七臣

一般演題 セッション2 虚血性心疾患 2

10:00-10:35

座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 矢野 秀樹
座長 (松戸市立総合医療センター循環器内科) 福島 賢一

I-7 超高齢者に対する左主幹部を含むDebulkingを要する高リスクPCIを施行した一例
(NTT東日本関東病院) 竹山 誠
松下匡史郎、河合 良樹、根本 脩平、桂 有智、
澤田 直子、割澤 高行、持田高太郎、佐藤 高栄、
安東 治郎、山崎 正雄

I-8 造影CTが診断と治療に有用であった、維持透析患者に発症した急性心筋梗塞の一例

(国立病院機構埼玉病院) 栗原 和人
小野 智彦、森泉 友齊、佐々木賢二、井合 渉、
丹羽 直哉、佐藤 篤志、田中 宏明、鶴見 昌史、
松村 圭祐、鈴木 雅裕

I-9 PCI治療適応評価における生理機能検査・血管内画像検査・血管造影の比較; RCTのネットワークメタアナリシス

(横浜労災病院) 清原 悠嵩
(慶應義塾大学循環器内科) 岸野 喜一
(Division of Cardiology, Emory University) 上山 紘生
(Department of Medicine, Jacobi Medical Center) 高橋 龍徳
(Division of Cardiology, NewYork-Presbyterian Brooklyn Methodist Hospital) 古林 雄平
(静岡医療センター心臓血管外科) 高木 寿人
(Division of Cardiology, Montefiore Medical Center) 工野 俊樹

I-10 薬剤溶出性ステント留置後の抗血栓療法により心タンポナーデを繰り返した一例

(大和市立病院研修医) 馬場 達也
(大和市立病院循環器内科) 今木 隆太
(大和市立病院循環器内科/北里大学医学部循環器内科学) 柿崎 良太、佐藤 哲郎、小林 周平
(北里大学医学部循環器内科学) 阿古 潤哉

I-11 急性心筋梗塞を合併した左室内血栓症に対して外科的血栓摘除術を行った一例

(国立病院機構高崎総合医療センター心臓血管内科) 瀬田 博貴
柴田 悟

教育セッションⅡ

10:50-12:20

座長 (聖マリアンナ医科大学薬理学) 木田 圭亮
座長 (熊本大学生命資源研究・支援センター) 丸目 恭平

宇宙に挑む医学

(宇宙航空研究開発機構(JAXA)有人宇宙技術部門) 松本 暁子

ランチオンセミナー1

12:30-13:20

共催: 第一三共株式会社
座長 (埼玉県立がんセンター) 岡 亨

最新の腫瘍循環器ガイドラインをどう活かすか?

～ onco-cardiologyガイドラインとESC Guidelines on cardio oncology ～

「がん患者の静脈血栓症のマネジメント」

(国立がん研究センター東病院循環器科) 田尻 和子

「がん合併心房細動の抗凝固療法は難しい?」

(国立がん研究センター中央病院総合内科) 庄司 正昭

教育セッションⅣ

13:30-15:00

座長 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科) 中村 文隆
座長 (国際医療福祉大学医学部循環器内科) 河村 朗夫

個人としてそして組織としてやるべきこと、やっではないけないこと

(「進め!電波少年」Tプロデューサー) 土屋 敏男

会長企画セッションⅢ

15:20-16:50

座長（国際医療福祉大学循環器内科） 小室 一成
座長（慶應義塾大学医学部循環器内科） 家田 真樹

未来の医療を変えるMuse細胞の発見と秘話：チャンスはどのように訪れるのか

（東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野） 出澤 真理

Resident Award

17:10-18:00

座長（千葉大学大学院医学研究院循環器内科学） 小林 欣夫
座長（東京医科歯科大学大学院循環制御内科学） 笹野 哲郎
審査委員長（日本医科大学循環器内科） 浅井 邦也
審査委員（浜松医科大学） 植村 研一
審査委員（東京大学医学部附属病院循環器内科） 武田 憲文
審査委員（がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科） 上原 雅恵

I-12 ロボット支援下PCIによる術者の超音波shear wave elastography法を用いた身体的負担評価

（聖マリアンナ医科大学病院臨床研修センター）

（聖マリアンナ医科大学病院循環器内科）

飯野 綾香
古賀 将史、瀧澤 栞、小林 芳邦、甲斐 貴彦、
栗田 真吾、奥山 和明、御手洗敬信、出雲 昌樹、
石橋 祐記、田邊 康宏、明石 嘉浩

I-13 鈍的外傷を契機に腹部大動脈瘤-下大静脈瘤を形成し高拍出性心不全をきたした一例

（自治医科大学医学部内科学講座循環器内科学部門）

栗原 綾乃
森田 愛理、齋藤 俊祐、和地 純佳、原田 顕治、
荒川 衛、荻尾 七臣

I-14 左室機能回復により植込型左室補助人工心臓を離脱したが短期で再装着に至った特発性拡張型心筋症の一例

（東京女子医科大学卒業臨床研修センター）

（東京女子医科大学循環器内科）

（東京女子医科大学心臓血管外科）

（東京女子医科大学大学院重症心不全制御学分野）

加藤 悠花
中澤まゆい、菊池 規子、服部 英敏、山口 淳一
市原 有起、斎藤 聡、新浪 博士
布田 伸一

I-15 血圧日内変動が心房細動アブレーション術後再発に与える影響

（自治医科大学医学部内科学講座循環器内科学部門）

弓田 馨之
渡部 智紀、星出 聡、渡邊 裕昭、上岡 正志、
蜂谷 仁、今井 靖、荻尾 七臣

I-16 集学的治療により自宅退院を達成した、急性白血病を合併したカテコラミン依存重症心不全の一例

（東京大学医学部附属病院循環器内科）

（東京大学医学部附属病院血液・腫瘍内科）

松井 楓子
進藤 彰人、石田 純一、赤澤 宏、小室 一成
本田 晃、黒川 峰夫

第Ⅱ会場

一般演題 セッション3 不整脈1 上室

9:20-9:55

座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 佐々木健人
座長 (日本医科大学付属病院循環器内科) 萩原かな子

Ⅱ-1 心房細動に対するカテーテルアブレーションを施行した完全内臓逆位の3症例

(群馬県立心臓血管センター循環器内科)

近藤 侃
佐々木健人、中村 紘規、木村 光輝、青木 秀行、
瀧澤 良哉、原口裕美子、吉村 真吾、鮎野 健一、
中谷 洋介、後藤 貢士、三樹 祐子、武 寛、
内藤 滋人
南 健太郎、豊田 茂

(獨協医科大学病院心臓血管内科/循環器内科)

Ⅱ-2 複数の上室性頻拍を呈した、上大静脈欠損合併の左上大静脈遺残の一例

(立川総合病院循環器内科)

松尾 佑治
佐藤 光希、萩原 明梨、石橋 正毅、柳澤 良晃、
末永 慎吾、太田 雄輔、岸 翔平、那須野暁光、
布施 公一、藤田 聡、北澤 仁、高橋 稔、
岡部 正明

Ⅱ-3 三心房心を有する発作性心房細動患者に対して肺静脈隔離術と左房天蓋焼灼を施行した一例

(都立広尾病院循環器科)

小峰 征也
新井 智之、神崎 拓、砂川 昌隆、津野 航、
水沼 吉章、佐々木高史、山岡広一郎、鯨岡 裕史、
稲垣 大、吉田 精孝、木村 高志、高橋 正雄、
北條林太郎、土山 高明、深水 誠二

Ⅱ-4 ペースメーカー長期留置による癒着のためリードマネージメントに苦慮した遺伝性不整脈を疑う1例

(亀田総合病院循環器内科)

宇佐美逸人
中田 亮、大野 真紀、水上 暁

Ⅱ-5 心房細動アブレーション中に空気塞栓による右冠動脈完全閉塞を来した一例

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科)

田口慎太郎
榎本 善成、清水 貴之、豊田 康豪、林 典行、
中村啓二郎、原 英彦、諸井 雅男、中村 正人

一般演題 セッション4 不整脈2 心室

10:00-10:35

座長 (千葉西総合病院循環器内科) 新田 正光
座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 吉村 真吾

Ⅱ-6 左室内血栓を伴う難治性心室頻拍に対して術中マッピングを用いたハートチームによるハイブリッド手術

(日本医科大学付属病院心臓血管外科)

篠原 智美
村田 智洋、茅原 一登、泉二 佑輔、網谷 亮輔、
上田 仁美、森嶋 素子、丸山 雄二、佐々木 孝、
宮城 泰雄、石井 庸介
蜂須賀誠人、林 洋史、岩崎 雄樹、浅井 邦也
志村亜由香
石川 真士

(日本医科大学付属病院循環器内科)
(日本医科大学付属病院ME部)
(日本医科大学付属病院 ME部/麻酔科)

II-7 CRT-Dの催不整脈性とその危険因子
(国立国際医療研究センター病院) 平岩 茉優
榎本 善成、鳥居 俊介、山本 正也、原 久男、
廣井 透雄

II-8 妊娠中に非持続性心室頻拍を認めた一例
(国立国際医療研究センター循環器内科) 岩田 瑞生
久保田修司、山本 正也、原 久男、廣井 透雄

II-9 Fallot四徴症術後に心室頻拍を来した一例
(獨協医科大学医学部心臓・血管内科/循環器内科) 安宅威久男
和久隆太郎、米澤 泰、戸倉 通彰、西野 節、
金谷 智明、佐久間理史、阿部 七郎、豊田 茂
(獨協医科大学日光医療センター医学部循環器内科) 北原慶次郎

II-10 心室細動蘇生後の心電図で偽性心室頻拍と早期再分極を認めた一例
(武蔵野赤十字病院循環器科) 黒崎 颯
堀江 知樹、岸上 哲也、大方信一郎、宮崎 亮一、
金子 雅一、李 哲民、永田 恭敏、野里 寿史、
足利 貴志

日本循環器学会関東甲信越地方会と日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部の合同シンポジウム
10:50-12:20 座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 安達 仁
座長 (水戸済生会病院循環器内科) 青沼 和隆

心臓リハビリテーションのこれまでのあゆみと未来
(榊原記念財団附属榊原記念病院循環器内科) 伊東 春樹

ランチョンセミナー2 12:30-13:20 共催: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 中村 紘規

心房細動アブレーションの変遷
(さいたま赤十字病院循環器内科) 稲葉 理

生物統計セミナー
13:30-15:00 座長 (帝京大学医学部内科学講座循環器内科) 横山 直之
座長 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 鈴木 洋

「医学研究のための統計学の基礎知識」
(著述家) 高橋 信

一般演題 セッション5 デバイス
15:20-15:55 座長 (江戸川病院循環器内科) 岡部 輝雄
座長 (河北総合病院心臓・血管疾患センター循環器内科) 井藤 葉子

II-11 エホバの証人を信仰する房室ブロック患者への屈曲した下大静脈経路リードレスペースメーカー移植術の症例
(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科) 中西 亨
松田 央郎
(聖マリアンナ医科大学循環器内科) 明石 嘉浩

II-12 心房細動アブレーション時に非吸収性縫合糸セットを用い、術後遷延する右肩遺浮腫を発症した一例
 (国立病院機構高崎総合医療センター) 太田 昌樹
 高橋 洋石、大駒 直也、千吉良彩花、柴田 悟、
 羽鳥 直樹、高橋 伸弥、小林 紘生、小林 洋明、
 羽鳥 智行、柴田 延昭、広井 知歳

II-13 患者死亡を遠隔モニタリングで把握することの限界：2症例の経験をふまえて
 (杏林大学医学部循環器内科) 秋葉 隆介
 野々口紀子、池脇 宏嗣、毛利 崇人、勝目 有美、
 磯谷 亮太、田代 身佳、星田 京子、松尾征一郎、
 副島 京子
 (杏林大学医学部不整脈先進治療学講座) 富樫 郁子、上田 明子、佐藤 俊明
 (杏林大学医学部循環器内科学診療看護師) 前田 明子

II-14 左冠動脈主幹部閉塞に伴うIABP抵抗性心原性ショックに対しImpellaへ変更し速やかに心機能が改善した一例
 (日本医科大学付属病院臨床研修センター) 矢吹 美緒
 (日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 澁谷 淳介、石原 翔、蜂須賀誠人、木村 徳宏、
 福土 圭、塩村 玲子、中田 淳、宮地 秀樹、
 山本 剛
 (日本医科大学循環器内科) 浅井 邦也
 (博慈会記念総合病院循環器内科) 三軒 豪仁

II-15 重度の両心不全を来したCOVID-19関連劇症型心筋炎に対して補助循環を用いて救命した1例
 (さいたま赤十字病院循環器内科) 中田健太郎
 加藤 駿一、峯岸 昌代、成田 岳、道下 俊希、
 磯長 祐平、高野 寿一、大屋 寛章、羽田 泰晃、
 狩野 実希、高木 崇光、稲村 幸洋、根木 謙、
 佐藤 明、大和 恒博、稲葉 理、松村 穰

デザートセミナー2 16:10-17:00 共催：キャスワークス・ジャパン合同会社
 座長 (千葉西総合病院) 三角 和雄

「Angio-derived Physiology：FFRangioによる診断・治療の最適化」
 (千葉西総合病院) 新谷 政樹
 (榊原記念病院) 萩谷 健一

Case Report Award 17:10-18:00
 座長 (聖路加国際病院心血管センター循環器内科) 小宮山伸之
 座長 (榊原記念財団附属榊原記念病院循環器内科) 伊東 春樹
 審査委員長 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 新家 俊郎
 審査委員 (北里大学医学部循環器内科学) 阿古 潤哉
 審査委員 (東京女子医科大学心臓病センター循環器内科) 山口 淳一
 審査委員 (千葉大学大学院医学研究院循環器内科学) 小野 亮平

II-16 HIV感染症治療中に亜急性経過で発症した心筋炎の一例
 (亀田総合病院循環器内科) 柴田 瑛帆
 宮國 翔太、三石 一成、野崎小百美、吉山 慶太、
 益城 惇、佐藤 允俊、篠崎 智哉、中田 亮、
 小林 哲也、竹川 弘毅、廣木 次郎、吉岡 賢二、
 大谷 拓史、大野 真紀、山下 周、水上 暁、
 植島 大輔、岩塚 良太、松村 昭彦

II-17 著明な左室心筋石灰化を呈し、心筋障害を複数のモダリティにて評価し得た敗血症性心筋症の1例

(日本大学医学部附属板橋病院循環器内科)

長江 滉人

八田 拓海、小嶋 啓介、福井 勇心、母坪 友太、

福本 勝文、村田 伸弘、奥村 恭男

(日本大学医学部附属板橋病院血液内科)

高橋 宏通、八田 善弘

II-18 SMAD3遺伝子新規バリエーションの機能解析から確定診断に至ったロイス・ディーツ症候群(Ⅲ型)の一家系

(東京大学医学部附属病院循環器内科)

石井 聡

藤原 隆行、波多野 将、小室 一成

(東京大学医学部附属病院循環器内科/マルファン症候群センター)

八木 宏樹、武田 憲文

(東京大学医学部附属病院心臓外科/マルファン症候群センター)

安藤 政彦、山内 治雄

(東京大学医学部附属病院小児科/マルファン症候群センター)

犬塚 亮

II-19 心アミロイドーシスの臨床的下大静脈壁肥厚が病理学的アミロイド沈着と関連した一例

(北里大学 医学部循環器内科学/北里研究所病院循環器内科)

藤吉 和博

(北里大学医学部循環器内科学)

亀田 良、阿古 潤哉

(北里大学北里研究所病院循環器内科)

東條 大輝、石田 三和、石田 弘毅

II-20 院外心停止を契機に確定診断に至った先天性副腎皮質過形成17 α 水酸化酵素欠損症の症例

(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科)

中西 亨

有馬 佑策、古藤 弾、笠原みづほ、山崎 浩史、

水越 慶、水野 幸一、松田 央郎

(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院代謝内分泌内科)

山本雄太郎、方波見卓行

(聖マリアンナ医科大学循環器内科)

明石 嘉浩

第Ⅲ会場

一般演題 セッション6 心不全1

9:20-9:55

座長 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 辻内 美希
座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 岩花 東吾

Ⅲ-1 ジルコニウムシロコケイ酸Na内服を契機に慢性心不全急性増悪をきたした一例
(横浜医療センター) 松井 優子

森 文章、菊池 健介、菊池 春香、前田 遼造、
塚本 圭、齋藤 貴士

Ⅲ-2 Destination TherapyとしてのLVAD装着で救命した拡張型心筋症の一例
(東京医科歯科大学病院循環器内科) 吉川 宏

野田 誠之、松田 祐治、後藤健太朗、西村 卓郎、
大森 真理、梅本 朋幸、米津 太志、宮崎 晋介、
前嶋 康浩、笹野 哲郎

Ⅲ-3 β -blocker導入困難であった高度低心機能症例に対してイバブラジンが有効であった1例
(国立病院機構高崎総合医療センター心臓血管内科) 高橋 伸弥

Ⅲ-4 当院におけるSGLT2阻害薬の副作用についての検討
(松戸市立総合医療センター循環器内科)

立林 卓
福島 賢一、高橋 秀尚、堀 泰彦

Ⅲ-5 TAVI施行後の重症大動脈弁閉鎖不全症による難治性心不全に対して大動脈弁置換術を施行した1例
(聖路加国際病院心臓血管外科)

増田 快飛
阿部 恒平、玉木 理仁、西田 秀史、三隅 寛恭
(聖路加国際病院循環器内科) 小宮山伸之

一般演題 セッション7 心不全2

10:00-10:35

座長 (千葉西総合病院循環器科) 倉持 雄彦
座長 (慶應義塾大学医学部/東京大学大学院医学系研究科循環器内科) 小室 仁

Ⅲ-6 心肺停止蘇生後重症心不全に補助循環併用し治療を行い社会復帰した頻脈誘発性心筋症疑いの若年男性の1例

(国際医療福祉大学成田病院初期研修医) 嵯峨濃 瑞
(国際医療福祉大学成田病院循環器内科) 福岡 良磨、中山 崇、相澤 義泰、杉村宏一郎、
河村 朗夫
(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 青木 薫子、小野 亮平、加藤 央準、岩花 東吾、
小林 欣夫
(国際医療福祉大学成田病院麻酔・集中治療科) 大村 和也、倉橋 清泰
(国際医療福祉大学成田病院救急科) 千葉 拓世、志賀 隆
(国際医療福祉大学成田病院病理診断科) 林 雄一郎、潮見 隆之
(国際医療福祉大学成田病院心臓外科) 真鍋 晋

Ⅲ-7 ネムリンクにより亜急性心筋梗塞発症時の中枢性無呼吸を確認した一例
(東邦大学医療センター佐倉病院循環器内科)

池田 裕樹
高橋 真生、佐藤 修司

Ⅲ-8 サクビトリルバルサルタン (ARNI)が腎機能改善に寄与したと考えられるHF p EFの一例
(江東病院循環器内科)

山下 晴世
高部 智哲、松本 貴宏、梶原 淳、山本 翔一、
田宮 栄治、加納 達二

Ⅲ-9 頻脈性心房細動の難治性心不全でABPMにてOSASが原因と示唆された一例
(佐野厚生総合病院) 渡辺慎太郎
鳥海 進一、加倉井俊也

Ⅲ-10 経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)後8日目に再発した高度房室ブロックの1例
(新潟市民病院) 本間 智洋
土田 圭一、内田 純也、櫻澤実のり、池杉 駿生、
渡辺 顕、小柳 宣人、酒井 亮平、柏 麻美、
林 由香、田中 孔明、保坂 幸男、尾崎 和幸、
高橋 和義、小田 弘隆

教育セッションⅢ

10:50-12:20 座長 (千葉大学医学部医学科) 岡本 昌大
座長 (国際医療福祉大学医学部医学科) 山下 正陽

心電図入門—実際の臨床現場での考え方 第一部 心電図基礎とその応用

(金沢医科大学教育学習支援センター長/株式会社マック・メディカル・アカデミー・コーポレーション主席講師) 東田 俊彦

ランチョンセミナー3 12:30-13:20 共催：日本メドトロニック株式会社
座長 (土浦協同病院循環器内科) 久佐 茂樹

「Micraリードレスペースメーカーの“うまみ”を最大限に引き出すために～基礎+応用～」

(亀田総合病院循環器内科) 水上 暁

教育セッションⅤ

13:30-15:00 座長 (千葉大学医学部医学科) 齋藤江里彩
座長 (国際医療福祉大学医学部医学科) 窪 賢介

心電図入門—実際の臨床現場での考え方 第二部 症例演習

(金沢医科大学教育学習支援センター長/株式会社マック・メディカル・アカデミー・コーポレーション主席講師) 東田 俊彦

デザートセミナー1 15:10-16:00 共催：アボットメディカルジャパン合同会社
座長 (千葉西総合病院) 三角 和雄

「PCIの残された課題、Complex治療に臨む」

「Complex治療を、病理、エビデンスから読み解く」

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 陣内 博行

OCTが導く「削らない」石灰化治療戦略

(北里大学病院循環器内科) 南 尚賢

一般演題 セッション8 弁膜症/心内膜炎

16:25-17:00 座長 (帝京大学医学部内科学講座循環器内科) 片岡 明久
座長 (国際医療福祉大学三田病院循環器内科) 田村 祐大

Ⅲ-11 治療に難渋した大動脈弁狭窄症と僧帽弁狭窄症の連合弁膜症の一例

(東京慈恵会医科大学循環器内科) 齋藤恵理子
奥山 虎章、伊東 哲史、宇野 剛輝、吉田 純、
森本 智、小川 崇之、吉村 道博
(東京慈恵会医科大学心臓外科) 儀武 路雄、國原 孝

- Ⅲ-12 上行大動脈遮断困難症例に対しsystemic hyperkalemia法を用いて僧帽弁置換術を施行した1例
 (榊原記念病院心臓血管外科) 陳 軒
 迎 洋輔、在國寺健太、岩倉 具宏、下川 智樹
- Ⅲ-13 大動脈弁狭窄症におけるTAVIとSAVRの比較：RCTのPhase-specificメタ解析
 (筑波大学医学群医学類) 霜田 智成
 (Department of Surgery, St. Luke's University Health Network, PA, USA) 横山裕次郎
 (国立病院機構静岡医療センター心臓血管外科) 高木 寿人
 (Department of Cardiothoracic Surgery, University of Michigan, MI, USA) 福原 進一
 (Department of Cardiology, Montefiore Medical Center, Albert Einstein College of Medicine) 工野 俊樹
- Ⅲ-14 僧帽弁閉鎖不全症に対する生体弁置換術後 10 年で僧帽弁狭窄症が進行し生体弁再置換術を施行した一例
 (平塚共済病院循環器内科) 柏 良之輔
 村本 容崇、西尾 祥郎、安井 由美、住野 陽平、
 飯谷 宗弘、秋吉 基光、岩井 慎介、小林 一士、
 大西 祐子、佐藤 康弘
 (平塚共済病院心臓血管外科) 宮島 敬介、高橋 政夫
 (平塚共済病院病理科) 松原 修
- Ⅲ-15 バルーン拡張型人工弁を留置した15日後に急性心筋梗塞症を発症した一例
 (川崎幸病院) 渡邊 一平
 大西 隆行、山本 周平、谷崎 友香、和田 真矢、
 佐々木法常、安藤 智、高橋 英雄、福富 基城、
 斎藤 直樹、羽鳥 慶、福永 博、桃原 哲也

第Ⅳ会場

教育セッションⅠ

10:00-11:30

座長 (国際医療福祉大学成田病院小児科) 藤井 克則
座長 (国際医療福祉大学成田病院臨床教育センター) 宮下 渚

「良い学会発表・症例報告の仕方」

(浜松医科大学) 植村 研一

ランチョンセミナー4

12:30-13:20

共催：ファイザー株式会社
座長 (虎ノ門病院 放射線科) 丸野 廣大

心アミロイドーシス診断における心臓核医学検査の有用性について

(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 松本 直也

学術委員会企画セッション

13:30-15:00

座長 (順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科) 林 英守
座長 (自治医科大学附属病院循環器内科学講座) 渡部 智紀

『リードスペースメーカーの新時代～過去・現在・未来～』

『過去～本邦におけるリードスペースメーカーの歴史と問題点～』

(筑波大学医学医療系循環器内科) 山崎 浩

『現在～2つのリードスペースメーカーの使い分け～』

(大阪警察病院循環器内科) 南口 仁

『未来～リードスペースメーカーの今後の展望～』

(千葉大学大学院医学研究院循環器内科学) 近藤 祐介

一般演題 セッション9 末梢血管/肺高血圧/腫瘍

15:10-15:55

座長 (がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科) 上原 雅恵
座長 (JR東京総合病院循環器内科) 松田 淳

Ⅳ-1 18年経過後に下肢浮腫を主訴として発症した大腿動脈仮性瘤

(鎌ヶ谷総合病院心臓血管外科) 川谷 洋平
堀 隆樹

Ⅳ-2 肺高血圧症の病型診断に苦慮した一例

(総合病院国保旭中央病院循環器内科) 矢島 琴音
櫛田 俊一、佐橋 秀一、市原 慎也、荒川 雅崇、
平野 智士、井ノ口安紀、早川 直樹、宮地浩太郎、
神田 順二

Ⅳ-3 特発性肺高血圧症に対して多剤併用療法で治療した2症例

(帝京大学医学部附属病院循環器内科) 土田 泰之
川嶋 秀幸、日置 紘文、山本 裕貞、片岡 明久、
渡 雄至、紺野久美子、渡邊 雄介、横山 直之、
上妻 謙

IV-4 左心耳切除後遠隔期に生じた巨大左心房内血栓の一例

(新百合ヶ丘総合病院循環器内科)

吉光寺直哉

高橋 良英、秋元 耕、前野 遼太、土方 禎裕、

福島 琢、佐藤 弘典、櫻井 馨、畔上 幸司

(新百合ヶ丘総合病院心臓血管外科)

齋藤 正博、前場 覚

(東京医科歯科大学附属病院循環器内科)

笹野 哲郎

IV-5 左室流出路に形成された可動性腫瘤に対して外科的切除を行った一例

(国立病院機構高崎総合医療センター)

柴田 悟

IV-6 神経内科医と密に連携をとることで早期に診断しえた潜因性脳梗塞の2例

(東京都立多摩総合医療センター循環器内科)

谷口 知佳

西村 睦弘、河内 啓貴、中村 沙織、三輪 裕仁、

守井 悠祐、櫻井進一郎、城谷 翔太、塩崎 正幸、

宮部 倫典、岡部 龍太、大塚 佳満、安西 耕、

森永 弘章、三ツ橋佑哉、加藤 賢、田中 博之

デザートセミナー3

16:10-17:00

共催：株式会社カネカメディックス

座長 (千葉西総合病院循環器科) 倉持 雄彦

『私が考えるBIOFREEDOM Ultraの有用性の使いどころ』

(足利赤十字病院)

沼澤 洋平

第V会場

一般演題 セッション10 静脈/大動脈1

9:00-9:35

座長 (大島内科クリニック内科)

大島 祥男

座長 (東京警察病院循環器科)

寺井 知子

V-1 来院後に心停止をきたし内科的集約的治療により救命した重症肺動脈血栓塞栓症患者の一例

(練馬光が丘病院循環器内科)

太田 耶瑛

大木 初里、佐藤 恒、玉那覇雄介、西成田 亮、

間瀬 卓顕、荒尾憲司郎

V-2 抗リン脂質抗体症候群 (APS) にDOACが無効であり、ワルファリンが著効した1例

(山梨大学循環器内科)

鈴木 惇平

(JCHO山梨病院)

出山順太郎、猪野 友里、菅又 渉、石原 司

V-3 腎静脈直上に下大静脈フィルター (IVC-F) を留置した胃癌合併の深部静脈血栓症の1例

(国保旭中央病院循環器内科)

速水 康成

神田 順二、榎田 俊一、宮地浩太郎、早川 直樹、

平野 智士、荒川 雅崇、佐橋 秀一、矢島 琴音、

高梨 啓介

(千葉大学医学部附属病院循環器内科)

金上 輝明

V-4 深部静脈血栓症に下肢浮腫から下肢動脈の血流障害を来したため、減張切開を行い下肢血流の改善を認めた1例

(東邦大学医学部循環器内科)

三舟 大和

天野 英夫、相川 博音、小川 浩、菊島 朋生、

佐野 隆英、池田 隆徳

V-5 SAPHO症候群による無菌性骨髄炎を合併した大動脈弁閉鎖不全症、上行大動脈拡張症の1例

(東京慈恵会医科大学医学部医学科)

大川 翔

(東京慈恵会医科大学附属病院心臓外科)

高木 智充、儀武 路雄、松村 洋高、有村 聡士、

石割 圭一、國原 孝

一般演題 セッション11 静脈/大動脈2

9:45-10:20

座長 (日本医科大学付属病院救急・総合診療センター) 高木 元

座長 (東京女子医科大学予防医学科・循環器内科) 村崎かがり

V-6 超高齢患者の破裂性腹部大動脈瘤に対して緊急EVARを施行し良好な治療成績を得た1例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科)

毛呂 貴宏

杉本 英純、齊藤 翔太、北野 奨真、鮫島 雄祐、

亀田袖妃花、矢口 知征、武中 宏樹、根本 尚彦、

安齋 均

V-7 術前にDICと頸動脈閉塞を合併したA型急性大動脈解離の一例

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心血管センター外科)

畑山 礼

出淵 亮、安田 章沢、長 知樹、松本 淳、

金子翔太郎、池松 真人、角田 翔、大倉 拓、

内田 敬二

V-8 呼吸不全となったStanford B型急性大動脈解離に対しステントグラフト内挿術が著効した一例
(日本赤十字社医療センター循環器内科) 和田 七海
堀江 華奈、黒木菜見人、小林 裕貴、山本 溪介、
瀧澤 雅隆、魚住 博記、池ノ内 浩
(日本赤十字社医療センター心臓血管外科) 鈴木登士彦、田中 慶太

V-9 急性大動脈解離の経過観察中に生じた腎動脈灌流障害に対し腎動脈内ステントグラフト留置術が奏功した一例
(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 神谷 尚吾
澁谷 淳介、渡久地 陸、石原 翔、蜂須賀誠人、
木村 徳宏、福士 圭、塩村 玲子、中田 淳、
宮地 秀樹、山本 剛
(日本医科大学 付属病院心臓血管集中治療科/循環器内科) 坏 宏一、浅井 邦也
(日本医科大学放射線科) 杉原 史恵、上田 達夫

V-10 感染性心内膜炎により急性下肢虚血をきたした一例
(済生会横浜市東部病院循環器内科) 谷中 夏海
毛利 晋輔、村井 篤弥、合田秀太郎、瀬戸長雄介、
香西 祐樹、岸田登志彦、深川 知哉、中野 考英、
山口 航平、水澤 真文、白井 重光、牧野 憲嗣、
本多 洋介、堤 正和、小林 範弘、山脇 理弘、
伊藤 良明

一般演題 セッション12 心筋炎・心筋症 1
10:40-11:15

座長 (日本医科大学付属病院循環器内科) 松田 淳也
座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 坂本 愛子

V-11 COVID-19による急性心筋炎にてカテコラミンとIABPを要した一例
(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 齊藤 亜実
陣内 博行、坂倉 建一、浜口 幸大、津久井卓伯、
伊部 達郎、谷口 陽介、牧 尚孝、藤田 英雄

V-12 抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎を背景とした非虚血性心不全
(東京医科大学病院循環器内科) 山崎 祐輔
岡野 智也、中山 智章、佐々木雄一、伊藤 有紀、
武井 康悦、小菅 寿徳、里見 和浩、近森大志郎

V-13 集学的治療が奏功した重症心不全を有した強皮症性心筋炎の一例
(湘南鎌倉総合病院循環器科) 佐藤 大介
山口 昌志、宮下 紘和、横山 裕章、落合 智紀、
松本 崇、水野 真吾、齋藤 滋
(湘南鎌倉総合病院リウマチ科) 角谷 拓哉

V-14 心サルコイドーシスの心嚢液貯留に対するステロイド治療が奏功した一例
(千葉大学医学部附属病院医学部医学科) 外山 涼
(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 浅田 一成、加藤 賢、大門 道子、小林 欣夫

V-15 急性Tリンパ球性白血病に対するHLA半合致同種造血幹細胞移植後に急激な心機能低下を来した一例
(新潟大学医歯学総合研究科循環器内科学分野) 齋藤 広大
土谷 浩気、袴田 崇裕、久保田直樹、池上龍太郎、
八木原伸江、柏村 健、猪又 孝元
(新潟大学医歯学総合研究科血液・内分泌・代謝内科学分野) 川上 絢子、片桐 隆幸、柴崎 康彦

一般演題 セッション13 心筋炎・心筋症2

11:25-12:00

座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 加藤 賢
座長 (虎の門病院循環器センター内科) 小宮山知夏

V-16 意思疎通が困難な高齢者たこつば症候群8症例の臨床的検討

(長岡西病院内科/昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門) 小澤 準之輔
(長岡西病院内科) 伊藤 正洋、永井 恒雄
(長岡西病院神経内科) 三木 健司

V-17 心原性ショックを伴った劇症型心筋炎に対して早期ステロイド治療が有効であった一例

(昭和大学藤が丘病院循環器内科) 長田 知恭
曾根 浩元、森 敬善、土至田 勉、佐藤 督忠、
磯 良崇、江波戸美緒、鈴木 洋

V-18 腎癌治療後の30歳女性が周産期心筋症を発症した一例

(上尾中央総合病院循環器内科) 田中小百合
中野 将孝、一色 高明、緒方 信彦、増田 尚己、
新谷 嘉章、太田 真之

V-19 心室細動ストームで発症した若年女性のたこつば症候群の1例

(横浜南共済病院循環器内科) 角田 貴大
清水 雅人、宮崎 紘子、三須 彬生、立石 遼、
山口 正男、山上 洋介、加藤 信孝、島田 博史、
一色 亜美、木村 茂樹、藤井 洋之、鈴木 誠
(小田原循環器病院) 西崎 光弘
(東京医科歯科大学循環器内科) 笹野 哲郎

V-20 リードレスペースメーカー植込み術後にたこつば型心筋症を発症した1例

(山梨大学医学部附属病院) 江口 実佑
黒木 健志、阿部 萌子、深澤 洸樹、安藤 涼太、
須藤 洸司、田中 裕也、佐藤 明

ランチオンセミナー5

12:30-13:20

共催：AInylam Japan株式会社
座長 (千葉大学大学院医学研究院 循環器内科学) 小林 欣夫

「心アミロイドーシスの診断意義を考える」

「心アミロイドーシス診療はどこへ向かうのか」

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学) 猪又 孝元

第15回ダイバーシティ・フォーラム/第8回 目指せ循環器専門医！循環器専門医試験対策セミナー

13:30-15:00

座長 (三井記念病院循環器内科) 堀内 優
座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 鈴木 紀子

専門医試験情報アップデート

循環器専門医制度の現状と課題

(桜橋渡辺病院/国立循環器病研究センター循環器内科) 岩永 善高

医療安全・医療倫理に関する講習会 (DVDセッション)

15:10-17:10

座長 (自治医科大学) 永井 良三
 座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 福田 恵一
 審査委員長 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙
 審査委員 (日本大学医学部内科学系先端不整脈治療学分野) 中井 俊子
 審査委員 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹
 審査委員 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 野村征太郎

V-21 大動脈弁置換術後患者の発熱に及ぼす要因

(国立病院機構東京病院、総合診療センター(循環器内科)/筑波大学大学院人間総合科学学術院) 石橋 寛史
 (国立病院機構東京病院、総合診療センター(循環器内科)) 青木 和浩
 (筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター) 柳川 徹
 (茨城県立中央病院循環器外科) 榎本 佳治

V-22 心室中隔穿孔に対する周術期補助循環管理としてのImpellaとIABPによりもたらされる臨床転帰の比較検討

(埼玉石心会病院心臓血管センター) 谷 昂大
 岩崎 司、村上 健、陣野 太陽、伊達 勇佑、
 佐々木健一、木山 宏、柴田 夏実、萩原 卓思、
 西山 茂樹、金山 純二、柳澤 亮爾、入江 忠信、
 小路 裕、飯田 隆史、芝崎 太郎、池 信平、
 荒巻 和彦、加藤 泰之
 (埼玉石心会病院) 山根 正久

V-23 QRS amplitudeはARNIによるReverse Remodeling の予測因子になりうる

(総合病院国保旭中央病院臨床教育センター) 田村 有
 (総合病院国保旭中央病院循環器内科) 荒川 雅崇、神田 順二

V-24 2層検出器搭載128列スペクトラルCTにより得られる心筋原子番号、電子密度番号を用いた異常心筋の検出

(千葉西総合病院放射線部) 宿谷 篤
 橋本 慎也、山崎 隆広
 (千葉西総合病院循環器内科) 赤座 愼、三角 和雄
 (国際医療福祉大学医学部市川病院循環器内科) 船橋 伸禎

第Ⅵ会場

会長企画セッションⅠ

10:30-12:00

座長 (国際医療福祉大学市川病院循環器内科) 目黒 知己
座長 (国際医療福祉大学医学部循環器内科) 河村 朗夫
審査員 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 福田 恵一
審査員 (兵庫医科大学医学部公衆衛生学) 島 正之
審査員 (国際医療福祉大学医学部循環器内科) 河村 朗夫
審査員 (東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野) 出澤 真理

中学生AWARD

「気象環境によるCOVID-19 患者発生数の影響」

(渋谷教育学園幕張中学校) 松本 和凜 (3年)

「女性ホルモンが与える淡水水生生物の変化」

(千葉県立東葛飾中学校理科部) 竹内あやめ (1年)、渡邊 航生 (2年)

(2年) 白鳥 瑛大

(1年) 泉 宗介、牧原 幸来、前田 和香、長岐 玲美、

湯川龍之介

特別講演「臨床段階に入った心臓再生医療の現状と今後の展望」

(慶應義塾大学医学部循環器内科) 福田 恵一

ランチョンセミナー6

12:30-13:20

共催：ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

座長 (東京医科歯科大学大学院循環制御内科学) 笹野 哲郎

コメンテーター (川崎幸病院循環器内科) 桃原 哲也

AF TOTAL MANAGEMENT

(筑波大学医学医療系循環器内科)

山崎 浩

(千葉大学大学院医学研究院循環器内科学)

近藤 祐介

会長企画セッションⅡ

13:40-15:10

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 武田 憲文

座長 (理化学研究所生命医科学研究センター循環器/バスキュラリクス研究チーム) 伊藤 薫

審査員 (国際医療福祉大学循環器内科) 小室 一成

審査員 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 赤澤 宏

審査員 (理化学研究所生命医科学研究センター循環器/バスキュラリクス研究チーム) 伊藤 薫

審査員 (東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野) 出澤 真理

高校生AWARD

「グルコースセンシングマイクロビーズとハイドロゲルマイクロニードルによる生体センサ」

(渋谷教育学園幕張高等学校) 表 真由 (2年)

「アルミニウムと水の反応による水素の効率的発生方法」

(渋谷教育学園幕張高等学校) 大槻 優奈 (2年)

特別講演「未来の循環器病学」

(国際医療福祉大学循環器内科) 小室 一成

座長 (東京大学大学院医学系研究科循環器内科学) 小室 一成
 座長 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学) 池田 隆徳
 審査委員長 (日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野) 清水 渉
 審査委員 (聖路加国際病院循環器内科) 丹羽公一郎
 審査委員 (三井記念病院循環器内科) 田邊 健吾
 審査委員 (聖路加国際病院循環器内科) 椎名 由美

- VI-1 青黛誘発性肺動脈性肺高血圧症(PAH)の長期経過：遠隔期再発症例を含む2例の症例報告
 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 松島 孝英
 平出 貴裕、桃井 瑞生、新屋 貴章、安西 淳、
 福田 恵一
- VI-2 心室性不整脈の発生基質としての膜性中隔の心筋分布の多様性に関する検討
 (昭和大学医学部医学科) 中村 恵里
 (昭和大学医学部法医学講座) 松山 高明
 (昭和大学医学部臨床病理診断学講座) 佐々木陽介、矢持 淑子
- VI-3 ファロー四徴症術後患者の右室拡大と心電図所見の関連
 (自治医科大学医学部医学科) 肥谷うちな
 高橋 慧、田澤 諒
 (自治医科大学内科学講座循環器内科学) 苅尾 七臣
 (自治医科大学 内科学講座循環器内科学/成人先天性心疾患センター) 甲谷 友幸、久保田香菜
 (自治医科大学 内科学講座循環器内科学/成人先天性心疾患センター/臨床薬理学) 今井 靖
 (自治医科大学 成人先天性心疾患センター/小児科) 関 満
- VI-4 ステロイド治療により肺動脈性肺高血圧症の改善を認めた特発性好酸球增多症の一例
 (杏林大学医学部) 三津山柚樹
 (杏林大学循環器内科) 合田あゆみ、菊池 華子、竹内かおり、伊波 巧、
 河野 隆志、副島 京子
- VI-5 薬剤性過敏症候群後に持続的な心静止状態となり両室補助人工心臓を要した巨細胞性心筋炎の1例
 (千葉大学医学部医学科) 神ノ田紗瑛
 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 小野 亮平、岩花 東吾、加藤 央隼、青木 薫子、
 小林 欣夫
 (千葉大学医学部附属病院心臓血管外科) 黄野 皓木、松宮 護郎

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部役員)

第4条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第5条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
- 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
- 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第6条

- 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 講習

- 会担当幹事 1 名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事 1 名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
 4. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
 5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
 6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）

第 7 条

2. 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より 15 日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の 3 項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65 歳以下で 7 年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去 5 年間に 3 演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

（地方会会長）

第 8 条

2. 支部規程第 11 条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より 15 日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座

開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。

10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第9条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第10条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第11条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華やかな懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。

13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めた通りとする。

(JCS-ITC 講習会)

第12条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第13条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携

2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施

3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

メディカルをシステムで考える

進化し続ける医療の世界に最適なソリューションを提供します。



INNOMEDICS

株式会社 **イノメディックス** <https://www.innomedics.co.jp>

〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目16番11号 TEL.03-3814-3647(代表) FAX.03-3815-8507

■事業所：東京(本郷/小石川/国立)・埼玉(埼玉/商品センター)・千葉(千葉/柏/鴨川)・神奈川(横浜/相模原)・茨城(つくば)

Canon

高精細MRIでしか、
見えない「世界」へ。

[*High Power Gradient*] × *AI*



Deep Learningを用いて設計したノイズ除去再構成技術搭載。
High Power Gradientによる高精細画像とAI技術*の併用により、
医療現場の未来を拓く、
ハイエンド3テスラ MRI装置 Vantage Centurian 誕生。

High Power Gradient 3テスラ MRI

Vantage Centurian

【一般的名称】 超電導磁石式全身用MR装置
【販売名】 MR装置 Vantage Galan 3T MRT-3020
【認証番号】 228ADBZX00066000 【類型】 Vantage Centurian
*本システムは自己学習機能を有していません。

E000113-02

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Made For life

PUSHING BOUNDARIES

未踏への挑戦

穿刺部の選択とケアを
治療戦略に

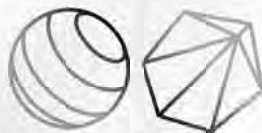
Entry Site
Management

R2P
Radial to Peripheral

末梢血管治療の
発展に貢献する

PCIの治療戦略を
よりよい方向に

「見える」を広げる



オトのチカラ/ヒカリのチカラ